

2010年度

科目名	古文書学				
担当教員	山中 浩之				
配当	日文3			コード	51140
開期	前期	講時	金曜日1限	単位数	2
授業テーマ	古文書を通して歴史を読む				
目的と概要	<p>私たちは日々文書を作成し授受している。何のためか。私たちの意志を特定の人や機関に伝達し、それに対する相手の反応や応答に期待し、そのことを通して何らかの問題を解決し新たな社会的関係を築いていくためである。昔も今も人々はそのようにして文書を作成し授受してきた。しかしその際、誰が誰に対して書くか、また時代の社会関係によって、その作成の仕方や書体が異なっていた。古文書を通してその違いを見ることは時代における人と人の関係の仕方や生き方を知ることもある。古文書を通してかつて生きていた人の息づかいを聞き、古文書から歴史を読む面白さを知ってほしい。</p>				
成績評価法	平常点(50%)を重視し、授業時のレポート(50%)を加えて総合的に評価				
テキスト	古文書のコピーを配布する。全く読めない字を自力で読んでいくための辞典として『くずし字解説辞典』は必要。/ 東京堂				
参考書	『概説古文書学近世編』、『演習古文書選 近世編』、『暮らしの中の古文書』/ 吉川弘文館				
履修に当たっての注意・助言	予習をしっかりしてほしい。				
講義計画					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 古文書に触れる (和紙とは、墨とは)</li> <li>2. 古文書の形態と種類 (どのように紙を切り、どのように折り、どのようにつづったか。)</li> <li>3. 古文書の扱い方 (どのように開き、めくり、とじるか、どう保存するか)</li> <li>4. 古文書の文体になれる (声に出して読む。当時の人の書く呼吸を知る)</li> <li>5. 慣用的表現になれる</li> <li>6. くずし字解説辞典の使い方</li> <li>7. 変体かなになれる。(往来ものをよむ)</li> <li>8. 同上</li> <li>9. 同上 (生活日用書類を読む。重宝記類を中心に)</li> <li>10. 同上</li> <li>11. 漢字のくずし字になれる。(干支、数字、方角、)</li> <li>12. 同上 (人名を中心に)</li> <li>13. 同上 (度量衡と貨幣)</li> <li>14. 証書類を読む (離縁状、借用証文、往来手形、奉公人請状など)</li> <li>15. 同上</li> </ol>					